

NetView および HP OpenView に Cisco トラップを追加する方法

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[Cisco トラップを追加するには
トラップを追加または変更するには](#)

[例](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、NetView および HP OpenView でトラップを追加および変更する方法の詳細と例を示します。

前提条件

要件

このドキュメントに特有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアのバージョンに基づいています。

- HP OpenView 4.1 以降
- IBM NetView 5.1 以降

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。対象のネットワークが稼働中である場合には、どのようなコマンドについても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

Cisco トラップを追加するには

一般的なネットワーク管理システム (NMS) アプリケーションの最新バージョンでは、MIB をロードすると、イベント管理部分にトラップがロードされます (「[MIB コンパイラと MIB のロード](#)」を参照)。これは非常に簡単な方法ですが、次の手順に従って、トラップだけを NMS に直接ロードすることもできます。

1. [CiscoView Planner \(登録ユーザ専用 \) から最新の Cisco Network Management Integration Data Bundle \(NMIDB \) をダウンロードします。](#)
2. アーカイブの /traps ディレクトリに存在する、trapd.41x Cisco トラップの定義ファイルを取得します。このファイルには、HP OpenView と IBM NetView のトラップ定義が含まれています。
3. trapd.41x ファイルを既存の trapd.conf ファイルにマージします。これを HP OpenView で実行するには、`xnmevents` コマンドを使用します。これを IBM NetView で実行するには、`nvaddtrapdconf` コマンドを使用します。製品は変更される場合があるため、詳細については HP または IBM のマニュアルを参照してください。

トラップを追加または変更するには

HP OpenView と IBM NetView のどちらの場合も、次のいずれかの方法で GUI にアクセスして、トラップを追加または変更できます。

- コマンドラインに `xnmtrap` と入力します。
- メニューから [Options] > [Event customization] > [Trap customization:SNMP] を選択します。

例

この例では GUI を使用して、CISCO-ISDN-MIB_V1SMI.my に `demandNbrCallInformation` トラップを追加します。

GUI を始動し、上部で企業名を探します。この例では、名前は `cisco-isdn` です。次に以下の手順を実行します。

1. エンタープライズがない場合、Add を選択します。
2. [Enterprise Name] フィールドと [Enterprise ID] フィールドに、関連する詳細を入力します。この例では、`cisco-isdn 1.3.6.1.4.1.9.9.26.2 ID`
3. 終了したら [Add] をクリックします。
4. 上部の企業名を強調表示します (この例では `cisco-isdn`)
5. トラップ名が下部にない場合は、[Add] をクリックしてフィールドに入力します。この例では、次のとおりです。イベント名は `demandNbrCallInformation` です。トラップは企業固有です。固有のトラップ番号は `1` この説明は MIB によるものです。

This trap-inform is sent to the manager whenever a successful call clears, or a failed call attempt is determined to have ultimately failed. In the event that call retry is active, then this is after all retry attempts have failed. However, only one such trap is sent in between successful call attempts; subsequent call attempts result in no trap.

[Event Source] フィールドは空白のままにします。[Event Category]、[Status]、および [Severity] フィールドは設定可能です (これらのフィールドの説明を見るには、[Help] をク

リックするか、HP OpenView または IBM NetView のマニュアルを参照してください)。 [Event Log Message] フィールドは設定可能ですが、この例の情報は次のように入力できません。

Trap received from enterprise \$E with \$# arguments:

demandNbrLogIf=\$1;

demandNbrNAME=\$2;

demandNbrAddress=\$3;

demandNbrLastDuration=\$4;

demandNbrClearReason=\$5;

demandNbrClearCode=\$6

[Popup Notification] および [Command for Automatic Action] フィールドはオプションです。

これらについては、HP OpenView または IBM NetView のマニュアルで説明されています。

6. 終了したら [Add] をクリックします。

関連情報

- [MIB コンパイラと MIB のロード](#)
- [ネットワーク管理製品のサポート](#)
- [ネットワーク管理のテクニカル サポート](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)